

# ペンギン

フォト劇場 (59)

写真が生ものがたり  
がむもの

「ペンギンいた」「いっぱいいた」とはしゃぐ吾子  
パパの背で今眠りに落ちた  
成田裕子

魚もペンギンも好きだった息子を連れ、よく青森の浅虫水族館に行った。ぐいぐい親の手を引いて見て回り、遂には電池が切れたように眠ってしまったこともあった。幸せなひとときを思い返してまた幸せになれた。

ペンギンのお散歩タイム一匹が海に向かって遠く  
見ている  
大平勇次

近くの大洗水族館で小さなフンボルトペンギンを見ることが出来る。遠くに住む孫が小さかった十数年前、その水族館でペンギンのお散歩タイムを見た。一匹だけ立ち止り暫く海の方を見ていた。私も海を見たくなくなった。



写真・木畑紀子

「予は皇帝！」雄ペンギンが胸をはる水族館のケ  
ースの内に  
塚原明子

皇帝ペンギンが好きだった。身体を覆う色彩が燕尾服のようで恰好よく、とても魅かれた。部屋には今もペンギンクッションがある。でも、もう水族館へは行けない。「皇帝」を幽閉しているのは人間だと気づいたから。

晩年の夫の歩みは愛らしきペンギンのごとペンギン歩き  
荒巻睦代

水族館でペンギンを見たことがある。直立不動で動きは緩慢である。夫が生前、自分の歩みを「ペンギン歩き」と言いながら散歩していた。ひよこひよここと歩く夫と連れ立ち歩いて時間を懐かしく思い出した。